

**令和元年度（2019年度）
関東地区調整機構（関東支部）事業報告**

1. 総会 / 委員会の開催

- 1) 運営委員会 2回（3月28日、11月25日：東京都病院薬剤師会事務所）
- 2) 総会 2回（4月17日、12月17日：慶應義塾大学薬学部）
- 3) 大学小委員会 2回（4月17日、6月26日：慶應義塾大学薬学部）
- 4) 薬局小委員会 1回（12月17日：慶應義塾大学薬学部）
- 5) 指導薬剤師養成小委員会 2回（11月25日：北里大学薬学部、1月27日：星薬科大学）
- 6) 実務実習向上委員会 1回（5月23日：メール会議）

2. 実務実習施設の割り振り調整作業

1) 2020年度病院・薬局実務実習の割り振り調整について

2020年度の割り振り調整1回目が終了した時点で、Ⅰ期において受入れ人数に対して大幅に超えるエントリーがあり、いくつかの大学で実習施設が確保できないという状況となった。大学小委員会を開催して、大学側では受け入れ枠の残っているⅡ期、Ⅲ期への実習期の変更を含めて2回目の割り振り調整を要請した。併せて、調整機構としては、該当薬剤師会に状況を説明し、追加の受入れに関しての検討をお願いし、受け入れ枠追加への対応をして頂いた。また、2021年度以降の割り振りに向けた対応として、各期にバランスよくエントリーすることを要請した。

2) 2020年度ふるさと実習（地区外）の割り振りについて

2020年度の地区外（7地区）への割り振り結果は、病院が27名で薬局が30名であった。東北地区が比較的多かった。また、地区外から割り振りは東北地区、東海地区、近畿地区からあり、病院が24名で薬局が30名であった。東北地区が比較的多かった。

3. 実務実習の円滑な実施に向けた事業等（トラブル、データベース、ふるさと等）について

1) ふるさと実習（地区内外）の推進

ふるさと実習の推進のための対策を継続的に検討することとした。

2) 2019年度実務実習の円滑な実施と評価に向けた取り組み

(1) 各期について実務実習実施状況調査の実施

第Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ期実習について、各大学および地区病院薬剤師会・薬剤師会に実務実習実施状況調査を行った。Ⅳ期についてはまとめ次第報告する。トラブルに関してはこれまでと類似の事例が報告され、連携等に関しては問題なく行われていた。

(2) 実務実習に関するトラブル事例の収集と防止策の検討

実習状況報告の他、トラブル事例を収集して実務実習向上委員会にてトラブル解析および対応策の検討を行い、総会にて報告した。

(3) 良い実習事例を大学から収集し、実務実習評価委員会による優秀施設の選考を行い、優秀施設による実例報告会の開催

大学および地区病院薬剤師会・薬剤師会から良い事例を収集し、総会において報告した。また、実務実習向上委員会において良い事例を選出して報告会を開催することとした（2020年5月17日）。

3) 実務実習の質の担保への取り組み

実習施設概要および認定実務実習指導薬剤師のデータベースの更新し活用を推進した。

各都県薬・病院薬剤師会での施設概要データベースの活用を推進し、各地区での実務実習の質の向上の取り組みを促進した。

4. 認定実務実習指導薬剤師の養成 / 認定実務実習指導薬剤師の資質向上

1) 改訂プログラムによる認定指導薬剤師養成ワークショップの開催：11回（26P）（事務局：太字下線は主幹事務局）

第1回・2回：2019年7月14、15日、帝京大学板橋キャンパス（東京都・埼玉県・神奈川県・千葉県 各薬剤師会）

第3回：2019年8月11、12日、国際医療福祉大学（栃木県・茨城県 各薬剤師会）

第4回：2019年8月11、12日、日本大学（千葉県・東京都 各薬剤師会）

第5回：2019年9月15、16日、高崎健康福祉大学（群馬県・新潟県 各薬剤師会）

第6回：2019年9月15、16日、帝京平成大学（東京都・神奈川県・長野県 各薬剤師会）

第7回：2019年9月22、23日：山梨大学医学部（山梨県・東京都 各薬剤師会）

第8回：2019年9月22、23日：日本薬科大学（埼玉県・東京都・千葉県 各薬剤師会）

第9回：2019年11月23日、24日：星薬科大学（神奈川県・東京都・茨城県 各薬剤師会）

第10回：2020年1月12日、13日：帝京大学板橋キャンパス（千葉県・埼玉県 各薬剤師会）

第11回：2020年1月12日、13日：帝京大学板橋キャンパス（日本保険薬局協会・調整機構）

今年度も認定指導薬剤師養成ワークショップについては、多地区合同で開催した。

2) 認定指導薬剤師の資質の向上のためのアドバンスワークショップの開催

1都9県の薬剤師会および日本保険薬局協会を担当事務局としてワークショップ形式で計9回（参加者数399人）のアドバンスワークショップを大きな問題も無く順調に実施し、学習成果基盤型教育に対応したカリキュラムプランニングの浸透を図った。アドバンスワークショップの修了者には関東地区調整機構より修了証を発行した。

5. 学習成果基盤型教育に基づく実務実習の実施状況の検証

1) 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習の実施状況等アンケート調査（2019年度）

本年度より病院・薬局実務実習も、新コア・カリキュラムによる実務実習の実施ならびに学習成果基盤型教育による教育指導体制が開始された。

関東地区調整機構では、改訂モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習の実施状況等アンケート調査（2019年度）に協力した。

薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）に準拠した実習が初めて行われた令和元年度における実施状況の自己点検調査（大学）及びアンケート調査（病院・薬局）結果を踏まえた、①実務実習ガイドラインの周知、②代表的な疾患の対応、③大学、病院、薬局の連携について、主な課題及びその対応が薬学実務実習に関する連絡会議より示された。

各大学及び実習施設（病院・薬局）において、もう一度点検を行い、改善すべき点があれば改善した上で、令和二年度以降の薬学実務実習を実施することとなった。

実務実習を向上させなければならない課題も山積しており、これらの課題に積極的に取り組み、関東地区の薬学生が充実した質の高い病院・薬局実務実習が実施できるように努める。